

大日寺の大日如来座像



よみ	だいにちじのだいにち によらいざぞう
指定	市指定有形文化財
種別	彫刻
数量	1軀
所在地	御前崎市下朝比奈
所有者	大日寺の大日如来保存会
指定日	平成10年3月27日

詳細情報

像高	50.3センチメートル
材質	頭体部を一木で彫出する一木造、彫眼、眉と瞳、髭は墨書とする

解説

大日寺はもと真言宗の寺で現在廃寺となっています。かつては、多くの坊(王城坊、橘坊)を持った大寺であったといわれています。

この大日如来座像は大日寺の本尊で、臂釧(ひせん)、腕釧(わんせん)を身につけるなどの特徴から、大日如来として制作された像である。

髻(もとどり)を結い上げる事が多い大日如来において、通常の如来像と同様に肉髻(につけい)を盛り上げ螺髪(らほつ)を表す作例は珍しい。

この大日如来坐像の制作年代に関する文献資料は現存しないが、樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した結果、ヒノキ材で16世紀以降の制作であることが判明した。

素朴な作風であり、大粒の螺髪、箱状の体部表現は室町時代に見られる特徴である。しかし、脚部材の高さが増していることや放射性炭素年代測定の結果から、制作年代は江戸時代初期まで下ると考えられ、16～17世紀の作と推測される。